

交換留学（派遣）帰国報告書

留学先大学： ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS)
留学先での所属学部・研究科： Department of Anthropology and Sociology
留学先での在籍身分： Japanese Exchange student
留学期間： 2015 年 8 月～ 2016 年 6 月
神戸大学での所属学部・研究科： 国際文化学部
学年（出発時）： 3
本報告書記入日： 2016 年 7 月 4 日

1. 留学先大学について

1-1. 留学先大学の「学期」について

学年開始月日： 9 月 21 日

学年終了月日： 6 月 10 日

学期：

① 9 月 21 日～ 12 月 11 日

② 1 月 4 日～ 3 月 18 日

③ 4 月 18 日～ 6 月 10 日

④ ___ 月 ___ 日～ ___ 月 ___ 日

1-2. 留学先大学の特長、人気のある分野等

地域研究に特化した文系のみの特異な大学である。約半数はイギリス外からの学生が占め、国際色豊かである。いくつかの分野は世界トップクラスに位置し、各学部各講座の専門性が非常に高い。

1-3. 留学先大学のサポートについて記入してください。

語学面でのサポート：

Non-Native向けに様々な英語スキルについての講座が開講されている（単位は付与されない）。ELASという語学学校が併設されており、学期が開始する前に通うこともできる。

勉学面でのサポート：

学習スキルについての講座がいくつも開講されている。一対一でチューターに質問できるシステムもある。また、教授のオフィスアワーも毎週あり、質問や相談を気軽にすることができる。

精神面でのサポート：

精神面での悩みについて相談できる窓口が設けられている。

住居・生活面でのサポート：

精神面でのサポート同様、窓口が設けられている。

課外活動のサポート：

インターンシップや語学に関するバイトなどの告知・斡旋が大学からある。また多様なSocietyが学生の手で運営されている。

1-4. 神戸大学の所属学部・研究科にて「単位認定」を申請する予定ですか。

はい いいえ

2. 住居

2-1. 住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。（気をつけること等）

大学寮 (Dinwiddy House) の場合、最寄り駅のアクセスも良く、大学へは徒歩で通学することができる。周辺には店が多くあり、暮らすには十分すぎる立地である。特別危険な地区ではないが、日本と比較すれば深夜は安全とは言えないため注意が必要である。個人部屋が各自に提供され、5~7人でキッチンを共有する。フラットによっては騒音のトラブルも少々あるらしいが、大きな問題はないと思う。

3. 生活について

3-1. 保険について

どのような種類の保険に加入したかを教えてください。

神戸大学斡旋の海外旅行保険に加入した（損保ジャパン）。

また、現地で加入した保険があれば、ご記入ください。

3-2. PC（パソコン）について

PCの保有の状況：日本から持参した 現地で購入した 保有しなかった

住居内のインターネットへの接続の可否：接続できた 接続できなかった

住居内でインターネットに接続していた場合、プロバイダー、料金等について記入してください。

大学寮の場合、寮費にインターネット接続料が含まれている。通信速度も問題なかった。

大学でのPCの使用の可否：使用できた 使用できなかった

大学でPCを使用していた場合、施設の場所や日本語環境等について記入してください。

大学構内であれば容易にWiFiに繋がった。同じロンドン大学であれば、別のカレッジでもWiFiを利用できた。

3-3. 医療について

留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。

通わなかった。

健康管理あるいは衛生面について特に注意すべきこと。

3-4. 銀行口座について

留学先でお金を引き出せるように、どのように準備・手続きしましたか。

日本から、海外キャッシングができるカードをいくつか準備し持参した。

3-5. 異文化体験について

留学先の文化・社会（習慣の違い等）について記入してください。

そっけない態度のサービスが多いことが否めないが慣れれば大きな問題ではない。夜中まで騒がしいなど、日本でいう「気遣い」にかけている行動に出くわすと思うが、注意すると聞いてくれることも多いため溜め込まない方がいいと思う。

大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトをもちましたか。

あまり持つことができなかった。

課外活動（ボランティア、インターンシップ、アルバイト等）をしましたか。

日本語語学ボランティア。日本人留学生の英語運用能力に関する調査（アルバイト）。

留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。（安全性、外国人への態度等）

ロンドンでは約半数を移民が占め、非常に多文化な環境である。そのため、「外国人」として扱われることもあまりなかった。特別治安の悪い地区はないが、深夜一人で出歩かないなどの、基本的な注意は必要である。

3-6. 留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、教えてください。

しなかった（大学院へ進む意向だったため）。友人にはロンドンキャリアフォーラムに参加している人もいた。

4. 経費について

4-1. 奨学金を受給していた場合、奨学金についてご記入ください。

（財団等名） JASSO , 10万 円/月

5. アドバイス及び感想

5-1. 現地で参考となった留学先国の情報（出版物、ホームページ）を記入してください。

「地球の歩き方『ロンドン』」、ウェブサイト「Mix B イギリス ロンドン」

5-2. 日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。

ボールペン、基礎文献（日本語）、日本風のお土産（ロンドンの場合、価格は高いがほとんどのものは簡単に手に入ると思う）

5-3. 留学することによって得られたことについて記入してください。（語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等）

※ 語学力については、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。

留学前：（ ） 点→帰国後（ ） 点

大学院生と友人になれたこと、専攻分野の教授の講座を受講できたことで、神戸大学卒業後の大学院留学というキャリアパスがより明確になった。語学力や学習スキル、専門的知識の向上があったと思いたい。また厳しい課題や授業に向かっていく、メンタルも鍛えられたように思う。

5-4. 振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。

詐欺にあったため、クレジットカードを一枚停止させた。予備のクレジットカードをその間利用し、停止させたものは銀行に届け出て、再発行してもらった。（クレジットカード（海外キャッシングができるもの）は複数枚持参することを強く勧める。）

5-5. 留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。

留学前、VISA取得に非常に苦労した。前年度から手続き方法の変更もあったが、ほとんどサポートを受けることができず、情報も少々錯綜していた。VISA取得についてサポート体制があったら嬉しかった。
留学期間中は特に問題ありませんでした。ありがとうございました。

5-6. 本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。

薦めたい。SOAS、ロンドンの多文化環境は非常に多様な価値観に触れる機会を与えてくれた。SOASの教授陣は非常に教育熱心で、妥協することなく指導してくれるし、何より講座の専門性が非常に高い。またロンドンの充実した文化施設、文化イベントは日本では得られない規模と面白さがあると思う。欠点としては非常に費用がかかることであるが、それをなんとかクリアすれば素晴らしい滞在先であった。

5-7. 留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。

（5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価）

- ・留学先大学の授業の「質」（内容、レベル等）に満足しましたか： 5
- ・留学先大学の学生サービスに満足しましたか： 2
- ・留学先の住み心地（安全性等）に満足しましたか： 4
- ・住居の「質」（広さ、料金等）に満足しましたか： 2
- ・全体として留学に係る費用は安かったと思い、満足しましたか： 1
- ・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか： 3
- ・留学全体の総合的な評価： 4

授業について

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習, 復習, テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	Introduction to Social	Caroline Osella,	3	1.0	60	課題文献が非常に多い。
2	Voice and Place	Lizzie Hull, etc.	3	1.0	40	課題文献が多い。オムニバス形式で毎週トピックが変わる。
3	Principle of Social investigation	Gabi Vom Bruck	2	0.5	10	フィールドワークが課題に含まれている。
4	Anthropology of Globalization	Naomi Leite	3	0.5	30	Quiz, Presentation, Book review, Research Proposalなど多様な課題があった。
5	Introduction to Development Studies	Feyzi ismail, etc.	3	1.0	100	人類学のコースと比較すると課題は少なめだが、それでも決して少なくはない。
6						
7						
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

クラスは主にレクチャーとセミナーに分かれ、後者は10人以下の少人数で行われる。「留学生」としての特別な評価方法はなく、正規生と同様の課題とレベルが求められる。総じて、教授・学生ともに学問に対して熱心である。恥や間違いを恐れず、自らの意見を発信していく、質問していく態度も求められた。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃：16万円（片道×2）

・住居費：（月額）90000 ×（留学月数）10ヶ月 = 90万円

・食費：（月額）70000 ×（留学月数）10ヶ月 = 70万円

・保険料：128970円

・その他：VISA申請費用・延長費用：17万円

合計：206万（留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。（800字～）

SOASへ留学して、大変充実した生活を送ることができた。

はじめに学業についてだが、観光でロンドンを訪れるのとは当然異なり、生活の多くは毎日の課題に苦しみ、辛さの方が大きかった。語学力は当然、日本語でも答えることができない状況に何度も直面し、自らの無能さに情けなくなることは数え切れないほどあった。それでも、どんな質問や相談にも乗ってくれる教授やチューター、自分同様に課題に苦しむ同級生、友人やフラットメイト、そして他国に留学している神大生などのおかげで腐らずに努力を重ねることができた。自暴自棄にならずに、ひとつひとつ対策し、少しでも向上しようと頑張る強さがこの留学中についた大きな力のひとつだと思う。もちろん後悔が今でも残る週や課題もあるため、大学院ではさらに力をつけてリベンジしたい。加えて、神戸大学では開講されていないような専門性が非常に高い講座を受講できたこと、興味深い論理展開や事例にたくさん出会えたことも大きな収穫だと感じている。多くの文献に触れ、それを用いてエッセーを書くあるいはテスト勉強をすることを通して、自らの知識が深まったため、さらに専攻分野を究めたいという想いも強くなった。精神面・知識面ともに力がついた交換留学だったと思う。

課外活動や国際交流についても多くの機会が与えられ、多くの価値観を享受することができた。学業を優先した分、あまり外出できなかつたし、友人と話す時間も比較的少なかったかもしれない。それでも日本にいるよりも多文化に触れる機会は非常に多かった。特にキッチンでフラットメイトや友人と話すこと、またロンドンでの多様なフェスティバルや博物館/美術館、特別展に足を運ぶことで、知らない価値観・文化観に出会えたことが非常にためになった。将来の視野も広がったし、自らの価値観の特徴や日本の特異性にも気づくことができた。

全てがスムーズに行ったわけではないが、苦勞を重ねながらも毎日充実した「楽しい」時間を過ごすことができた。留学中、何より自分に向き合い、多様な価値観・考え方に驚く時間が多かったことを考えると、留学した意義は大きかったと思う。